



頑張る“チカラ”を応援します。

2024年度第15回 学生チャレンジ企画



- 応募期間**
- ①プレントリー受付:2024年3月 1日(金)~4月15日(月)
 - ②エントリー受付:2024年4月16日(火)~4月30日(火)
 - ③書類受付:2024年5月 1日(水)~5月27日(月) 13:00まで

※①から順に段階を踏まえることをお勧めしますが、②からもしくは①および②を省いても応募は可能です。

応募方法や応募書類のダウンロードはこちらから
<http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/>



応募資格 本学に在籍する学生(学部生・北海道短期大学生・大学院生・別科生) **表彰** チャレンジ大賞(副賞:5万円)ほか **活動資金** 30万円を上限に支給

趣旨 社会や地域への貢献、国際交流、ボランティアや大学の活性化につながる活動に取り組む学生をサポートする制度です。問題解決力、コミュニケーション力、交渉力、予算管理能力の向上を目的とします。

企画内容 拓殖大学では「利他の精神」に基づく学生の社会活動を強く推進しており、これには「SDGs」の観点も包括されていることから「持続可能な17の開発目標」をよく理解して企画してください。

お問い合わせ先 広報室(文京キャンパス) TEL.03-3947-7160 E-Mail:gakuchalle@ofc.takushoku-u.ac.jp 主催:広報部・学生部

身近なボランティアや地域との交流など、 これまで学生のさまざまなチャレンジをサポートしてきました!

八王子の山車文化継承をサポートする。

八王子の山車文化を守るためのボランティアを行い、文化継承のサポートをしました。



地域活性化!高齢者を元気づけよう!

養護老人ホームのお年寄りを元気づけ、地域交流ができる活動を行いました。



SNSに気をつけよう

中学生を対象にロールプレイング(寸劇)でSNS犯罪の危険性を啓蒙しました。



地域の食品ロスを減らそう! Take Free
フードロス削減に取り組む飲食店をSNSや冊子の発行で発信し、社会貢献活動を行いました。

2023年度
第14回

学生チャレンジ企画 実施報告書

頑張る“チカラ”を
応援します。



Contents

- P1 第14回を振り返って
- P2 2023年度(第14回)募集要項
- P3 プレゼンテーション審査
- P5 採択企画メンバー 一覧
- P6 紅陵祭での展示発表・ワークショップ
- P7 成果報告発表会
- P9 ボランティア&交流プロジェクト in the Philippines ~離島の子供たちにもっと笑顔を~ 学生ボランティアチーム Lapu Lapu
- P11 みんなで作ろう! SDGsモザイクアートプロジェクト サステナPLASアート
- P13 防げるがん: フォーカス・フューチャープロジェクト Health Watchers
- P15 生分解性プラスチックの認知拡大と新たな可能性の提案 MTP(Milk To Plastic)
- P17 農と学のマルシェ ~北海道と東京をつなぐ~ 北の恵みプロジェクトチーム



拓殖大学は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



2023年度 第14回

学生チャレンジ企画

< 総括 >

講評

2023年度 第14回 学生チャレンジ企画を振り返って

学生チャレンジ企画副実行委員長 **寺家村 博** (学生支援センター長 政経学部教授)



2023年度第14回学生チャレンジ企画を無事に終了することができました。まず何といても企画に参加して下さった学生の皆さん、企画をお支えいただいたすべての皆様に深い感謝と御礼を申し上げます。

COVID-19との共存を余儀なくされている状況のなか、今年度の学生チャレンジ企画には20件の応募がありました。第1次選考、第2次選考を経て、5つの企画が採択・実行されました。昨年12月には成果報告発表会が開催され、チャレンジ大賞を含め3賞が決定しました。採択されたグループの企画書を読み、プレゼンテーションを聴いていると、彼らがなぜこのテーマを取り上げたのか、何を伝えたいのか、達成したい目標やゴールをどこに置いているのか、最初から終わりまで一本の直線で導かれ途中で切れることがない「物語」を感じることができました。さらにどのグループにも共通していたのが「社会的な」(ソーシャル)という形容詞で表現できる企画であった点です。ご存知の通り英語のsocialは

「社会の、社会的な」という意味の形容詞であり、現代では経済の領域で用いられると同時に「人のつながりや連携」を表現する場合にも多く使われています。どのグループの活動にも他者との有益な関係性の構築や、他者を思いやる心持ちが随所に見られ、社会における「利他の精神」が十分に発揮されており、素直に嬉しく思います。

一方で、どのグループにもチャレンジという言葉が意味するものが少し欠けていたように感じました。もちろんチャレンジという言葉の捉え方は人それぞれ違います。ただ、もしチャレンジが身体、精神そして心情のバランスの上に成り立つものであるとするならば、少しだけ足りない部分があったように思います。同時にこの企画を通じてチャレンジの意味をどのように学生の皆さんに深く理解していただくかは、私たち審査する側も真剣に考えなくてはならない課題であると痛感しました。

過年度応募状況

回数	年度	応募件数	1次審査(書類選考)通過	2次審査(プレゼン選考)通過 採択企画	優秀企画			
					最優秀賞(チャレンジ大賞)	優秀賞(チャレンジ賞)	奨励賞	
第1回	2010年/平成22年	21	10	6				
第2回	2011年/平成23年	20	8	8				
第3回	2012年/平成24年	21	9	6				
第4回	2013年/平成25年	15	8	6				
第5回	2014年/平成26年	19	9	6				
第6回	2015年/平成27年	14	8	6				
第7回	2016年/平成28年	23	8	5	1	1		
第8回	2017年/平成29年	23	10	5	1	1		
第9回	2018年/平成30年	34	8	5	1	2	2	
第10回	2019年/令和元年	グループ部門	38	15	9	1	3	2
		個人部門	2	1	1			
		アイデア部門	52	20	20			
第11回	2020年/令和2年				新型コロナウイルス感染症の影響により中止			
第12回	2021年/令和3年	26	9	6	1	1	1	
第13回	2022年/令和4年	26	11	6	1	1	1	
第14回	2023年/令和5年	20	9	5	1	2	2	

2023年度(第14回)募集要項<実績>

趣旨 社会や地域への貢献、国際交流、ボランティアや大学での学びを活かした活動などを積極的に行う学生をサポートするものです。

目的 問題解決力、コミュニケーション力、交渉力、予算管理能力の向上を目的とする。

応募資格 本学に在籍する学生(学部生・北短生・大学院生・別科生)
※採択企画の企画書および活動内容は、大学の広報としてホームページや学報(TACT)で学内外に広く公開するほか、その他の広報媒体に掲載する場合があります。そのため応募者及び協力者の氏名・学部学科・学年・出身校についても公表対象となりますので匿名での応募はできません。
※個人(1名)でも応募可能です。

企画内容 趣旨に基づき、「SDGsの達成すべき17の目標」の観点を取り入れて企画してください。

- 活動条件**
- ①趣旨に添うことを前提とした活動であること
 - ②学業に支障を来さないこと
 - ③危険を伴う活動は避けること
 - ④活動期間中、中間報告のための取材を受けること
 - ⑤紅陵祭で展示とワークショップにより活動成果を発表すること
 - ⑥活動の成果と反省・活動資金の収支をまとめた実施報告書を提出すること
 - ⑦成果報告発表会で最終発表を行うこと

採択件数 5件程度を予定

活動資金 企画書の内容に応じた所要経費の一部を、30万円を上限に活動資金として支給します。なお、活動資金は実施報告書にて会計報告し、精算を行います。計画が実行出来なかった場合には、活動資金の返金を求める場合があります。

応募期間 2023年4月25日(火)～5月22日(月) 15:00

募集方法 Takudai Portal、デジタルサイネージ、ホームページ、学内ポスターで告知

応募方法 所定の提出書類フォーム(Excel形式)をホームページからダウンロードし作成してください。提出前にセルフチェックを行った上、入力済みのエクセルデータを学生チャレンジ企画専用アドレス (gakuchalle@ofc.takushoku-u.ac.jp)へ送信してください。なお、送信の際件名に「学生チャレンジ企画応募 グループ名(個人の場合は氏名)」を入力して、メールの本文には代表者の所属学科または研究科、学年、氏名を記載してください。

主催 広報部・学生部

選考方法 ◎第1次選考(実行委員による書類審査)
結果は、6月9日(金)に電話でお知らせします。

◎第2次選考(プレゼンテーション審査)
6月17日(土)に後藤新平・新渡戸稲造記念講堂で開催します。パワーポイント等を使った5分のプレゼンテーションを行って頂き、プレゼン後10分間の質疑応答を行います。

企画の実行 活動条件に基づき、スケジュールを立て計画的に実行します。

※採択された企画は12月9日(土)、文京キャンパスにて行われる成果報告発表会でその成果を発表して頂きます。その際、取組状況・プレゼン発表を総合的に審査しチャレンジ大賞、チャレンジ賞、奨励賞を選考し、表彰します。

スケジュール

4月25日(火) 募集開始・説明会(八王子国際キャンパス)

4月26日(水) 説明会(文京キャンパス)

4月27日(木) 説明会(八王子国際キャンパス)

5月1日(月) 説明会(文京キャンパス)

5月2日(火) 説明会(八王子国際キャンパス)

5月22日(月) 募集締切

6月9日(金) 第1次選考結果を電話で連絡

6月15日(木) プレゼンテーション用スライドデータ提出締切

6月17日(土) 第2次選考(プレゼンテーション審査)

6月19日(月) 選考結果(採択企画)をホームページで発表

6月下旬 活動研修会(両キャンパス)

7月～9月 中間レポート※取材を受けホームページに掲載

10月27日(金)～29日(日) 紅陵祭での展示発表・ワークショップ/活動完結

11月2日(木) 「実施報告書」原稿提出締切

12月9日(土) 成果報告発表会

3月上旬 「実施報告書(冊子)」発行



プレゼンテーション審査

6月17日(土)文京キャンパスにおいて、第1次選考(書類選考)を通過した9企画の第2次選考(プレゼンテーション審査)が行われました。各々の想いが込められた提案は目を見張るものがあり、審査員からはチャレンジ力やテーマ、主体性といった様々な視点から多くの質問が出され、白熱した展開となりました。選考の結果、5つの企画が採択されました。

講評

学生チャレンジ企画
実行委員長
潜道 文子 副学長



今日のようなプレゼンテーションを初めて経験する方も多かったと思います。これから社会に出て働くときに、自分の考えを上司に伝えたり、他の企業に何かを提案する機会がとて多くなります。準備も含めて良い機会だったと思いますし、こういう経験を積むことが将来の活躍につながると考えています。

第1次選考で採択され、参加できた9グループの皆さんが見ることのできた景色だと思います。本当に良かったなと思います。準備期間が短い中、企画をまとめ上げ、皆さん精一杯の取り組みを見せていただいたと思います。これからも引き続き頑張ってください。



審査のポイント

①学生主体となっているか

②オリジナリティがあり、魅力的であるか

③活動内容は実現可能か

④選択したSDGsのゴールと活動内容が合っているか

⑤予算計画が適正であるか

第2次選考参加企画 ★は採択企画

<p>色えんピース</p> <p>SDGsを体験してみよう! ～海ゴミの削減と活用性～</p> <p>海岸の清掃を通じて、環境問題への意識啓発に貢献したい。</p>	<p>グリーンフューチャー</p> <p>廃棄される野菜からクレヨンを制作する活動</p> <p>廃棄野菜の再利用を通じて、フードロスの認知を高めたい。</p>	<p>★ MTP(Milk to Plastic)</p> <p>生分解性プラスチックの認知拡大と新たな可能性の提案</p> <p>牛乳の大量廃棄問題を、生分解性プラスチックで解決したい。</p>
<p>★ サステナPLASアート</p> <p>みんなで作ろう! SDGsモザイクアートプロジェクト</p> <p>廃プラスチックを使用したアートを通じてSDGsへの理解を促進したい。</p>	<p>★ 学生ボランティアチーム Lapu Lapu</p> <p>ボランティア&交流プロジェクト in the Philippines ～離島の子供たちにもっと笑顔を～</p> <p>離島の子供たちに教育機会を提供したい。</p>	<p>★ 北の恵みプロジェクトチーム</p> <p>農と学のマルシェ ～北海道と東京をつなぐ～</p> <p>北海道と東京の協働で、陸の豊かさを守りたい。</p>
<p>脱フードロスチーム</p> <p>減らそうフードロス! ～新しい教育の形を目指して～</p> <p>廃棄野菜の加工と販売を通じて、新しい教育支援を行いたい。</p>	<p>★ Health Watchers</p> <p>防げるがん:フォーカス・フューチャープロジェクト</p> <p>ワクチンや検診の正しい理解を促進し、健康について考えるきっかけづくりをしたい。</p>	<p>学生フリマチーム</p> <p>フリマでリユース ～広げる支援の輪・交流の輪～</p> <p>フリーマーケットの開催を通じて、廃棄物削減・再利用の架け橋になりたい。</p>

プレゼン後の感想

こちらからご覧ください。



審査員のコメント

こちらからご覧ください。





採択企画メンバー 一覧



学生ボランティアチーム Lapu Lapu

商学部 経営学科	3年	吉田 悠人 (代表者)	神奈川県 松陽高等学校 出身
商学部 国際ビジネス学科	3年	木下 恵太	神奈川県 上清南高等学校 出身
商学部 国際ビジネス学科	3年	田中 駿冴	千葉県 中央学院高等学校 出身
商学部 国際ビジネス学科	2年	川村 日花莉	神奈川県 みなと総合高等学校 出身
商学部 国際ビジネス学科	2年	猿橋 香太郎	埼玉県 埼玉栄高等学校 出身
商学部 会計学科	2年	堀切 怜菜	香川県 高松商業高等学校 出身

サステナPLASアート

商学部 経営学科	3年	丸山 武晃 (代表者)	東京都 千早高等学校 出身
商学部 経営学科	4年	付 亦冉	東京都 千駄ヶ谷日本語学校 出身
商学部 経営学科	4年	高橋 萌加	東京都 武蔵野高等学校 出身
商学部 経営学科	4年	中野 広翔	埼玉県 伊奈学園総合高等学校 出身
商学部 経営学科	3年	遠藤 伸尚	東京都 錦城高等学校 出身
商学部 経営学科	3年	崔 祐理	東京都 メロス言語学院 出身
商学部 経営学科	2年	洞口 輝	東京都 千早高等学校 出身

Health Watchers

外国語学部 国際日本語学科	3年	松永 日美香 (代表者)	東京都 拓殖大学第一高等学校 出身
外国語学部 国際日本語学科	3年	華 正陽	東京都 東京早稲田外国語学校 新大久保校 出身
外国語学部 国際日本語学科	3年	吳 明熹	東京都 京進ランゲージアカデミー 新宿校 出身
外国語学部 国際日本語学科	3年	DUONG THI PHUONG NHI	東京都 Sun-A国際学院 出身
外国語学部 国際日本語学科	3年	张 玮琦	東京都 千駄ヶ谷日本語学校 出身
外国語学部 国際日本語学科	3年	HA KIM MI	東京都 東京ワールド日本語学校 出身
外国語学部 国際日本語学科	3年	楊 書涵	神奈川県 翰林日本語学院 出身
外国語学部 国際日本語学科	3年	李 梓楽	東京都 国書日本語学校 出身
外国語学部 国際日本語学科	3年	鎌田 沙那	神奈川県 橋高等学校 出身
外国語学部 国際日本語学科	3年	北村 卓巳	栃木県 宇都宮南高等学校 出身

MTP(Milk To Plastic)

商学部 経営学科	3年	竹縄 みずき (代表者)	神奈川県 大磯高等学校 出身
商学部 経営学科	4年	山田 大晴	北海道 札幌第一高等学校 出身
商学部 経営学科	4年	山岡 航	千葉県 東京学館高等学校 出身
商学部 国際ビジネス学科	3年	佐藤 誠	東京都 大成高等学校 出身
商学部 国際ビジネス学科	3年	常木 桃英	東京都 十文字高等学校 出身
政経学部 経済学科	3年	岡 旭	熊本県 千原台高等学校 出身

北の恵みプロジェクトチーム

商学部 国際ビジネス学科	4年	脇 優翔 (代表者)	東京都 昭和高等学校 出身
商学部 国際ビジネス学科	4年	木村 隼也	埼玉県 武蔵越生高等学校 出身
商学部 国際ビジネス学科	4年	橋本 海生	千葉県 検見川高等学校 出身
商学部 国際ビジネス学科	4年	平野 亜伊	埼玉県 朝霞西高等学校 出身
商学部 国際ビジネス学科	4年	山本 琴菜	東京都 八王子実践高等学校 出身
商学部 経営学科	3年	有本 一空	神奈川県 東海大学付属相模高等学校 出身
商学部 経営学科	3年	石川 寛人	東京都 八王子実践高等学校 出身
商学部 経営学科	3年	堀越 亜希	茨城県 土浦第三高等学校 出身
商学部 経営学科	3年	増田 旺亮	静岡県 市立清水桜が丘高等学校 出身
商学部 経営学科	3年	佐藤 悠汰	埼玉県 豊岡高等学校 出身
商学部 経営学科	3年	吉村 慎太郎	兵庫県 芦屋学園高等学校 出身
商学部 国際ビジネス学科	3年	井元 彩花	埼玉県 武蔵越生高等学校 出身
商学部 国際ビジネス学科	3年	中村 泉水	埼玉県 春日部女子高等学校 出身
商学部 国際ビジネス学科	3年	中村 友哉	長崎県 鎮西学院高等学校 出身
商学部 国際ビジネス学科	3年	深谷 美帆	東京都 飛鳥高等学校 出身
商学部 国際ビジネス学科	3年	町田 完	埼玉県 山村学園高等学校 出身
商学部 国際ビジネス学科	3年	山本 澤	東京都 上水高等学校 出身
農学部 国際ビジネス学科(北)	1年	青木 海瑠	埼玉県 新座高等学校 出身
農学部 国際ビジネス学科(北)	1年	上原子 周平	北海道 札幌北斗高等学校 出身
農学部 国際ビジネス学科(北)	1年	草場 祐輝	北海道 旭川明成高等学校 出身
農学部 国際ビジネス学科(北)	1年	佐藤 柊哉	神奈川県 平塚農高等学校 出身
農学部 国際ビジネス学科(北)	1年	菅野 来瞳	北海道 池上学院高等学校 出身
農学部 国際ビジネス学科(北)	1年	長嶋 拓武	神奈川県 深沢高等学校 出身
農学部 国際ビジネス学科(北)	1年	山本 温己	千葉県 あずさ第一高等学校 出身
農学部 国際ビジネス学科(北)	1年	叢 旺	東京都 LIC国際学院 出身
農学部 国際ビジネス学科(北)	1年	馬 千里	東京都 拓殖大学別科日本語教育課程 出身



紅陵祭での展示発表・ワークショップ

2023年度(第14回) 学生チャレンジ企画 実施報告書

各団体の取り組みがよくわかる活動紹介や、成果物の展示など、参加者巻き込み型のイベントを開催しました。ギャラリーやワークショップを通じて来場者に活動の想いを届けることができました。



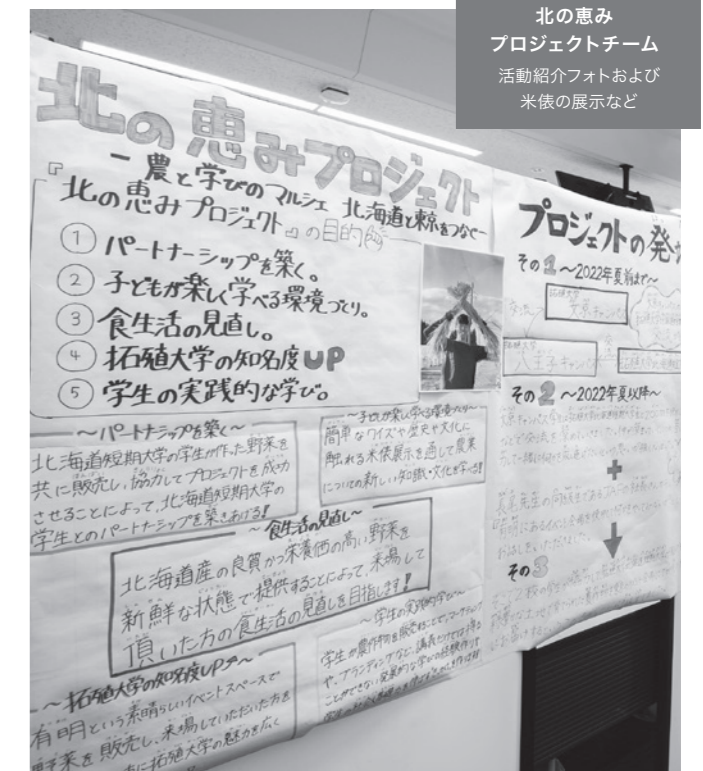
サステナPLASアート
廃棄プラスチックを用いた
モザイクアートのワークショップなど
MTP(Milk To Plastic)
自作カゼインプラスチックの展示など



学生ボランティアチーム
Lapu Lapu
活動紹介フォトおよび
ムービーの展示・放映など



Health Watchers
クイズ・ゲームおよび
ミニプレゼンの実施など



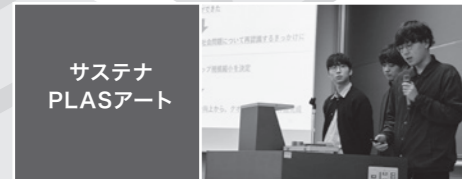
北の恵み
プロジェクトチーム
活動紹介フォトおよび
米俵の展示など



成果報告発表会

採択企画の成果報告発表会を開催。各賞が決定!

12月9日(土)、文京キャンパスにて今年度の活動の集大成である成果報告を行いました。チャレンジ力やチームワーク、目標への達成度などを総合的に審査し、最も大きな成果が見られた企画にはチャレンジ大賞と副賞が授与されました。



サステナ
PLASアート



MTP
(Milk To
Plastic)



学生ボランティア
チーム
Lapu Lapu



北の恵み
プロジェクト
チーム



Health
Watchers



講評 寺家村 博 政経学部教授
学生チャレンジ企画副実行委員長

今回は3つの賞を5グループすべてにお渡ししました。実行委員会(審査会)を開く前は想定外で、なぜこの想定外が起きたのかというと、皆さんの発表が大変すばらしく、甲乙つけ難かったということです。皆さんが企画書を出してから今日まで紡いできた、各グループの物語というのが、決して予定調和ではなく、想定を超えたものだったのではないのかなと思います。そして、その物語がとても美しかったと思います。本当におめでとうございます。機会がありましたらぜひ、来年もチャレンジしていただけたら幸いです。



チャレンジ
大賞

学生ボランティアチーム Lapu Lapu

ボランティア&交流プロジェクト in the Philippines ~離島の子供たちにもっと笑顔を~

講評 寺家村 副実行委員長

とても拓殖大学らしい企画で、海外とのつながりを持ち「この大学の特徴がとても出ていた」と、審査員の意見がありました。また、紅陵祭の展示もよく工夫されていました。さらに、これは大事なことです。皆さんの想いが伝わってきました。開会の挨拶の際に「ご自身の言葉でお話いただけると嬉しい」とお伝えしましたが、審査員の皆さんに言葉が届いたということだと思います。

代表挨拶 商学部 経営学科 3年 吉田 悠人

このような賞と、チャレンジする機会をいただきありがとうございました。私たちのボランティアはこれからも続けていくつもりです。継続が一番大切だと思いますので、これからも頑張ります。

受賞の感想(メンバーの声)

- 半年間、頑張ってきたので、報われてよかったです。
- かなり大きな企画でとても大変でしたが、最後にチャレンジ大賞をいただけて、やってきたことがうまく形になったと思っています。

みなさんにとって学チャレとは?

●大学から企画をサポートしていただけることは本当にありがたいことです。学生がどんどんチャレンジしていける場だと思っています。●「学生でもここまでできる!」というチャンスいただける機会でした。学チャレは学生の可能性がひろがる取り組みです。



チャレンジ
賞

サステナPLASアート

みんなで作ろう! SDGsモザイクアートプロジェクト

講評 寺家村 副実行委員長

SNSで発信し、それに対して企業が関心を持ってくれたことにとても高い評価がありました。同時に、発表が非常に分かりやすかったという声も聞かれました。

受賞の感想(メンバーの声)

- 大賞を逃し悔しい部分もありますが、いろいろな企業の方に助けていただき、チームで協力してここまで活動ができたのでよかったです。●他にもすばらしいチームがたくさんあったので、その中でチャレンジ賞をとれたことはとてもうれしいです。

みなさんにとって学チャレとは?

●クラブやサークルに所属してなくても、仲間と一緒に大学生らしいことができる有意義な機会でした。●1~2年生で頑張ってきたことがあまりなかったので、自分を変えるいいチャンスでした。



チャレンジ
賞

Health Watchers

防げるがん:フォーカス・フューチャープロジェクト

講評 寺家村 副実行委員長

何とんでもポスターが群を抜いてすばらしく美しかったです。とても貴重な啓蒙活動として評価が高いという意見が多くありました。そして、当初は3か国語展開だったのが6か国語展開で、倍に増やしたということもポイントが高かったです。

受賞の感想(メンバーの声)

- 国際色を生かしたこの活動でチャレンジ賞をいただけたことを本当にうれしく思います。●短い期間でしたがみんなで頑張れてよかったです! ●HPVワクチンについて深く知ることができたのでよかったです。●今回の活動でいろいろと勉強になりました。これからこの経験を生かして社会に出ていきたいと思います。●活動をととして、後輩からHPVワクチンについての質問がたくさん届いたので、とても有意義な活動になったと思います。●子宮頸がんの知識をさまざまな人に発信ができてよかったです。

みなさんにとって学チャレとは?

●挑戦を表現する場所だと思います。●成長の場です。●いろいろな力を成長させる場です。●異文化コミュニケーション能力を高められる企画でした。●人生のチャレンジ! として人間としての勇気をもてる活動です! ●社会に必要なスキルを身につけることができます。



奨励賞

MTP(Milk To Plastic)

生分解性プラスチックの認知拡大と新たな可能性の提案

講評 寺家村 副実行委員長

紅陵祭の展示がすばしかったです。また、活動当初より高い目標を掲げていました。それはイコール、志の高さということだと思います。プレゼンにおいても、質問によく答えられており、準備をして臨まれたと感じました。

受賞の感想(メンバーの声)

- 半年間、頑張って活動をゼロから作り上げていくことができました。ただし、もっと上を目指せたかなと思います。●賞をいただき安心しました。企業様とのつながりもできたので今後も協力いただきしっかり学んでいきたいです。

みなさんにとって学チャレとは?

●自分を成長させる大きなきっかけになりました。これまでの大学生活ではチャレンジする機会があまりなかったので、すごく刺激的かつ新鮮な日々で、様々な経験を積める場所でした。●自分の今後に生かせるような能力を身につけられるきっかけを与えてくれました。●学内だけではなく、学外に出ているいろいろな企業にお話を伺った経験がとてもよかったです。優秀なメンバーに恵まれて多様な考えを吸収できたので、残りの大学生活も悔いのないよう来年もチャレンジしたいと思っています。



奨励賞

北の恵みプロジェクトチーム

農と学のマルシェ ~北海道と東京をつなぐ~

講評 寺家村 副実行委員長

拓殖大学北海道短期大学と文京キャンパスをつなぐ企画は初めてということで、ゼロからのスタートの中、発表までに皆さんの大きな成長を感じることができました。拓殖大学北海道短期大学と文京キャンパスを結び礎を築けたのではないかと思います。

受賞の感想(メンバーの声)

- 半年間、拓殖大学北海道短期大学と交流してきたプロジェクトでこういった賞をいただけたのは、今まで大変なこともいろいろあったけれども、諦めずにコミュニケーションをとり続けたことで成功できたと思っています。●この企画での経験により成長できたことが大きかったのと、目にみえるものとして賞をいただけました。

みなさんにとって学チャレとは?

●拓殖大学北海道短期大学の学生や先生とはなかなかコミュニケーションをとる機会はないと思います。今まで知らなかった人たちと情報を共有し、コミュニケーションをとれたのは、自分にとってすごく貴重な機会になったと思います。新たな人間関係が広がりました。●名前のおりいろいろなチャレンジ、挑戦をできたことが大きかったと思います。特に社会人として必要なことを学生のうちに学べたことは貴重な経験でした。4年間の集大成になるような活動ができたと思います。



ボランティア&交流プロジェクト in the Philippines ~離島の子どもたちにもっと笑顔を~

【団体名】 学生ボランティアチーム Lapu Lapu

【代表者】 商学部 経営学科 3年 吉田 悠人



企画概要

このプロジェクトは、私たち学生ボランティアチームが、フィリピンの離島にある貧しい地域の子どもたちに、教育の機会を提供することを目指しています。我々は、フィリピンで活動しているNPO法人(Go Share)と共同で、この目標に取り組んでいます。このプロジェクトでは、書籍の調達と寄付を行います。また、ボランティアチームが現地へ行き、子どもたちと交流し教育のサポートを行うことで、学習の機会を提供しています。

活動記録

- 6月上旬 ボランティアメンバー募集開始
- 6月中旬 スタートアップミーティング
- 7月13日 経過報告会
- 7月27日 クラウドファンディング開始
- 8月4日 ボランティアメンバー募集締め切り
- 8月中旬 本の選別ミーティング
- 9月3日 クラウドファンディング終了
- 9月4~8日 フィリピン現地にてボランティア活動実施
- 10月27~29日 紅陵祭での展示発表
- 12月9日 成果報告発表会
- 12月10日 三菱UFJ銀行への活動報告会



島の小学校



読み聞かせ活動



一緒に料理を作っている様子



書籍を寄付

活動の目的と目標

本活動は、2023年2月に実施された「SDGs & 英語研修 in the Philippines」に参加し、フィリピン現地のスラム村落にて子どもたちと交流する中で「自分たちに何かできることはないか」という思いから企画されました。

1.目的

(1)子どもたちへの学習の場の提供

本活動はフィリピン離島(パダノン島)スラムにて行われます。我々が訪れる島には、小学校が1つしかなく学習の機会が限られています。書籍を寄贈することで学習の機会を提供し、子どもたちの学習意欲の向上、並びに学習習慣の定着を目的としています。また、書籍の保管場所、そして学びの場として図書館を建設します。

(2)日本での認知拡大

SDGsやボランティアは知っていても身近な存在ではないと考えるため、我々の取り組みを広く認知していただき、より身近に感じられることを目的としています。Instagramでの活動の発信、紅陵祭ではボランティア風景の展示会を行います。

2.数値目標

- (1)子どもたちの80%の学習意欲向上と学習習慣の定着(ボランティアの前後にアンケートを実施)
- (2)図書館建設費をクラウドファンディングにて調達(1stゴール60万円、2ndゴール100万円)
- (3)紅陵祭来場者数100人の達成



ごみ拾い時の集合写真



コンクリートを作る作業

活動実績の報告

1.ボランティア事前準備

私たちは事前準備として主に3つの活動を行いました。その中で、時間不足という課題がありましたが、よりメンバー内でコミュニケーションをとるようにし、活動を円滑に進められるように工夫しました。

(1)スケジュール調整

本活動は、フィリピンという異国の地での挑戦だったため、安全面に気を使いました。今回、協力していただいたNPO団体Go Shareさんと何度もミーティングを行い、ボランティアに参加して下さった方々が安全に最大限楽しめるようスケジュールを調整していきました。

(2)ボランティアメンバー募集

学生ボランティアチームLapu Lapuのメンバーだけではできないことに限りがあると考え、ボランティアメンバーを募りました。Instagramでの呼びかけや、メンバーの知人に幅広く声掛けを行った結果、たくさんの方に興味を持っていただくことができました。しかし、海外というハードルの高さや私たちの社会的信頼のなさが課題に挙げられ、参加を決定する方は少なかったです。そこで、ただボランティアをする、良い経験になる、ということだけを伝えるのではなく、私たちが何者で、どのような背景があるのかを伝えるよう心掛けました。その結果、私たちを除く約10人の方がボランティアに参加していただきました。

(3)クラウドファンディング実施

図書館建設費用をクラウドファンディングで集めました。

ここでの課題も、社会的影響力、信頼のなさが挙げられました。第三者から支援を受けるのは難しいと考え、メンバーの知人や、Go Shareさんと繋がりのある方々にお声がけをさせていただきました。その結果、41人の方から80.5万円の支援金をいただくことができました。

2.9月4日~8日 ボランティア実施

5日間のボランティア活動の内、初日と最終日はホテル泊、ほか3日間は離島スラムでのホームステイという形で過ごしました。離島にいる間は現地の方々と同じ生活をする事で、絆を深めると同



図書館の建設予定地

時に、貧困の意味を身を持って理解しました。体調面には配慮したつもりでしたが、メンバーの疲れが見えたので、当初予定していたより休憩を多くとることで柔軟に対応しました。

(1)読み聞かせ

島の子どもたちを集め、寄贈した書籍の読み聞かせ活動を実施しました。本に興味を持ってもらえるか不安もありましたが、読み聞かせ時は大きく関心を寄せる子どもが多かったです。

(2)図書館建設

島の大工さんと協力して図書館建設の土台作りを手伝っていただきました。廃屋をハンマーで壊し、鉄筋を折り、コンクリートを混ぜて作る場所から始まります。日本では機械がやってくれることをすべて手作業で行いました。良い経験にはなりましたが、同時にこの状況も変えていくべきだと感じました。

(3)そのほかのボランティア活動

お母さん世代の家事のお手伝いや、子どもたちと一緒にごみ拾いをしました。ボランティア最終日には、島で唯一の小学校に行き日本から持ってきた日用品(各家庭から持ってきたタオルやペンなど)を寄付しました。

3.紅陵祭展示

10月27日~29日に紅陵祭にて展示会を行いました。内容は、我々のボランティア活動を1日ずつ模造紙にまとめ、時系列順で紹介していき、最後に動画で実際の風景を見ていただくというものです。また、ただ展示をするだけでは興味を持っていただけないと考え、教室内の演出を離島に近づけ、少しでも現地の雰囲気や体験できるようにしました。しかし、実際会場に足を運んでくれた方でも、写真や動画のみを見て後にする方が多いという課題がありました。そこで、会場にいらした方々との交流を図り、実際に体験した感想や、説明をするように工夫しました。

4.成果報告発表会後の活動

- (1)2023年12月 Go Shareによる 三菱UFJ銀行へのボランティア報告会出席
- (2)2024年1月 図書館完成
- (3)2024年2月 第2回ボランティア



紅陵祭の様子

活動成果

1.目標の達成度

(1)子どもたちの80%の学習意欲向上と学習習慣の定着→図書館の竣工が報告会までに間に合わず、子どもたちへのアンケートが実施できないと考え、親世代へのアンケートを実施しました。

A.アンケート内容1、私たちの図書館建設について関心があるか。目標数値80%の数値上昇。結果数値ボランティア前5%、ボランティア後65%

B.アンケート内容2、養育者として教育への関心はあるか。目標数値60%の数値上昇。ボランティア前5%、ボランティア後35%(アンケートはNPO法人Go Shareさんの協力を受け実施しました。)教育について子どもへの働きかけだけでなく、教育をする側へのアクションも大切だと感じました。

(2)図書館建設費をクラウドファンディングにて調達。目標数値1stゴール60万円、2ndゴール100万円。結果数値80.5万円

(3)紅陵祭目標来場者数100人。結果数値約360人



最終日の記念撮影

会計報告

活動資金(支給額)	170,000円	活動経費(支出額)	169,811円
		残金	189円

内 訳		小 計
消耗品費(文房具・写真印刷費用)		9,811円
資料雑誌費(書籍代)		100,000円
委託費(図書館の管理及び読み聞かせスタッフ人件費用)		60,000円
合計		169,811円
活動から得た収入		
クラウドファンディング		805,000円
合計		805,000円

▶ ホームページ掲載

- 実施企画書 <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/2023/saitaku3.html>
- 学チャレレポート <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/2023/repo1.html>



みんなで作ろう! SDGsモザイクアートプロジェクト

【団体名】サステナPLASアート

【代表者】商学部 経営学科 3年 丸山 武晃



企画概要

大量のプラスチックが海へと流出してしまっている現代で、より多くの人々にプラスチックごみ問題やSDGsについて知ってもらい、一人ひとりの意識を変える、きっかけ作りを必要があると私たちは考えました。廃棄物を使用したSDGsアートを作ることを始め、SNSでの発信、紅陵祭での作品展示やワークショップを行い、実際に見て、体験してもらうことで、プラスチックごみ問題などの悲惨な現状を知ってもらいながら、SDGsへの取り組みを促進する活動を行います。

活動記録

- 4月10日 団体結成
- 6月20日 Instagramアカウント開設
- 6月28日 拓殖大学麗澤会マナー委員会主催のごみ拾いボランティアに参加(その後複数回参加)
- 7月5日 板橋区にて、ごみ拾い活動を実施(その後15回実施)
- 7月10日 葛西臨海公園にて海洋プラスチック採集(1回目)
- 7月24日 葛西臨海公園にて海洋プラスチック採集(2回目)
- 8月4日 SDGsアート制作開始
- 8月24日 葛西臨海公園にて海洋プラスチック採集(3回目)
- 8月30日 サステナPLASアート ホームページ公開
- 10月1日 平塚海岸にて海洋プラスチック採集(4回目)
- 10月2日 株式会社cocochiへの取材
ライストーリーを提供していただく
- 10月23日 ICC株式会社への取材
すだちフレッシュを提供していただく
- 10月26日 SDGsアート全4点の完成
(PPバンドアート2点)
(マイクロプラスチックのスノードーム2点)
- 10月27~29日 紅陵祭にて展示・ワークショップの開催
SDGsアートのアンケートを実施
- 10月29日 SDGsモザイクアートの完成

活動の目的と目標

1.背景

年間約800万吨ものプラスチックごみが適切な処理をされないまま海に流出し、海岸に大量のプラスチックごみが打ち上げられているという事実を、一体どのくらいの人々が知っているのでしょうか。海に囲まれている「日本」という国で暮らす私たちにとって、プラスチックごみ問題は大きな課題です。これらの課題をより多くの人々に知ってもらい、自分たちに何ができるのか考えてもらう必要があると考えました。

2.目的

私たちは、SDGsアートの力を活用して人々にメッセージを伝え、社会問題に対する理解の促進を目的に活動を企画しました。クリーン活動・アート制作・紅陵祭での展示・ワークショップ・SNS活動を通じて、見てくれた方・参加してくれた方の心を動かし、プラスチックごみ問題をはじめとする社会問題の深刻さを、より多くの人々に伝えていきます。そして、心を動かされた人々自らSDGsの目標達成へ貢献してもらうことが、私たちの活動の意味だと考えています。様々な人と協力し、世界を変えるきっかけ作りとなる活動をしていきます。

3.数値目標

Instagramのフォロワー数: 150人
ワークショップへの参加人数: 50人

活動実績の報告

1.海洋プラスチック採集/ ビーチクリーン活動

私たちは、アートに使用するプラスチックを採集するため、東京都の葛西臨海公園にて3回、神奈川県平塚海岸にて1回、合計4回のプラスチック採集を行いました。私たちが住む東京や神奈川の海を知るためにも、近郊の砂浜で行い、海洋ごみの実態について触れることができました。遠くから見ただけでなく、近くで見るとたくさんのプラスチックが落ちていることがわかりました。

2.ごみ拾い活動

拓殖大学麗澤会マナー委員会が主催するごみ拾い活動に参加することに加え、街をきれいにする取り組みとして、街中や公園、荒川の河川敷などで、ごみ拾い活動を行いました。合計で約20回行い、アートに使用できそうなごみは採集すると同時に、土壤汚染の現状を目の当たりにしました。

3.Instagramとホームページ制作

Instagramアカウントを開設し、ビーチクリーン/ごみ拾い活動や、SDGsアートの投稿などを行いました。そのほかの活動と並行して行わなければいけないため、投稿頻度は多くありませんでしたが、伝わりやすいレイアウトにすることで、フォロワー数は目標の150人を達成することができました。

そして、私たちの活動とSDGsの情報を発信するためのホームページを制作し、公開することもできました。しかし、著作権などの問題があり、SDGsアートの事例はまだ載せることができておらず、コンテンツの量・質ともに完成度は低い状態です。

4.企業との連携

Instagramを通じてリアクションをいただいた、SDGsに関連する地球に優しい商品を販売する企業にお声掛けし、実際の商品を紅陵祭にて展示させていただきました。SNSを通じて繋がりをを持った企業とのコミュニティを重視することで、相乗効果による、さらなる大きなプロジェクトへの可能性を感じることができました。

5.SDGsアート制作

(1)個人制作

ビーチクリーンの際に採集したプラスチックを使用したスノードーム2点と、廃棄されるPPバンド

ドを使用したアート作品2点の、計4点のSDGsアートを制作しました。

(2)紅陵祭でのワークショップの開催

紅陵祭にて、SDGsモザイクアートの体験型ワークショップを開催し、25人の参加者に体験してもらいました。初期目標としては50人の参加を目指していましたが、採集したプラスチックの量の少なさから、規模を半分ほどに縮小しました。モザイクアートは参加者のおかげで、無事完成させることができました。また、SDGsアート制作においては、以下の3点を工夫しました。

- ・アートを見て、プラスチック問題の悲惨さが伝わるか。
- ・難しい技法を使わず、子どもから大人までが作れるものか。
- ・作っている人が笑顔になれるか。

実際に来場していただいた子どもから大人まで、多くの世代の方々に興味を持っていただけただけで、「やってみよう!」と声をかけてもらえることも多く、非常に嬉しい体験となりました。

6.紅陵祭展示

(1)サステナPLASアート×MTP共同展示

生分解性プラスチックについて企画を行うMTP(P15)との共同展示によって、長い間「分解されない」といったプラスチックの特性を理解してもらい、今後プラスチックの取り扱いがどのように変化していくべきなのか、考えていただく機会となりました。

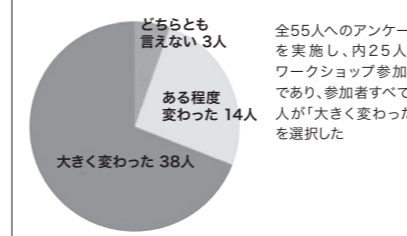
(2)商品サンプルの配布

ご協賛いただいた企業からは、サンプル品を提供していただき、主にワークショップの参加者に向けて配布しました。アートは毎日、取り組むものではないため、SDGsアートの体験以外にもサンプル品をおとして、日常でできるSDGsの実践について学べる機会を提供することができました。

7.アンケート調査

紅陵祭来場者やInstagramのフォロワーに対して、SDGsアートへの理解度の変化をテーマにアンケート調査を実施し、ワークショップで実際にアート制作をした人と、SDGsアートを見ただけの人の理解度を比較しました。合計で55人に回答していただき、SDGsアートの体験をした25人に関しては、100%の理解向上が結果として表れました。

作品/展示閲覧後SDGsアートへの理解度の変化



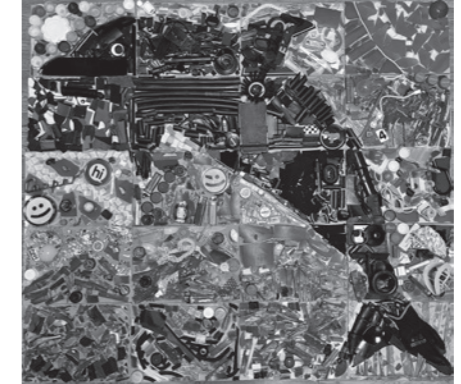
活動成果

1.目標に対しての自己評価

活動の目的であるプラスチックごみ問題とSDGsアートへの理解度向上が達成され、多くの人々に興味を持っていただくことができ、素直に嬉しい気持ちです。特に、体験型ワークショップを通じて、SDGsアートに興味を持っていただいた方が多く、達成感を得ることができました。また、ワークショップは規模縮小をして開催しました。ごみがなかなか集まらず、50人の参加が厳しいことが早期の時点で予測されたため、当初の目標の半数となりましたが、早めに目標を再設定したことで、メンバーのモチベーションを維持することができ、完成度の高い作品に繋がりました。

2.人々のSDGsに対する興味関心

紅陵祭の展示に訪れた方々は、プラスチックごみ問題の深刻さを実感し、悲しい顔を見せていらっしゃった一方で、SDGsアートを見ると、



完成したイルカのモザイクアート

笑みが溢れる瞬間もありました。SDGs×アートの魅力を発見してもらい、社会問題について認識していただくことができたと感じています。

3.身についた力

ビーチクリーンやごみ拾い活動など、すべて授業以外の時間で行っていたため、メンバーとの協力・スケジュールの管理が非常に重要であり、心配な部分でもありました。しかし、メンバーは勿論、友人やゼミナールの先輩などにも参加していただき、団結力を高めることができました。また、企業の取材や連絡をとることで、計画力や、実行力などを養うことができ、社会人基礎力育成の面でも非常に良い経験になったのではないかと思います。

4.最後に

SDGsアートを作るにあたって、来場してくれた方々に現在のプラスチックの状況が伝わっているのかな?自己満足ではないのかな?と不安になることもありました。しかし、ワークショップに参加してくれた方々から「楽しかった!」とたくさんのお声をいただいて、アートは人を笑顔にできる・人の心を動かせるものだを再認識し、活動に対して自信を持つことができました。

紅陵祭やSNSを通じて、多くの人々のSDGsに対する興味関心を喚起し、皆様にプラスチックごみ問題やSDGsについて、積極的に考えてもらいきっかけが提供できたことを誇りに思います。

会計報告

活動資金(支給額)	95,000円	活動経費(支出額)	53,583円
			残金 41,417円

項目	小計
消耗品費(展示資料印刷費用・制作費用・ごみ拾い用 tong、シャーシなど)	23,169円
旅費交通費(駐車場代金・燃料代金)	17,371円
委託費(ホームページ制作におけるドメイン及びサーバー代金)	11,880円
送料(サンプル)	1,163円
合計	53,583円

▶ ホームページ掲載

- 実施企画書 <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/2023/saitaku2.html>
- 学チャレレポート <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/2023/repo4.html>



拓殖大学麗澤会マナー委員会が主催するごみ拾い活動に参加



採集したプラスチック



実際の砂浜の様子



実際の砂浜の様子



展示の説明を行うメンバー



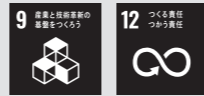
ワークショップの開催風景



生分解性プラスチックの 認知拡大と新たな可能性の提案

【団体名】 MTP (Milk To Plastic)

【代表者】 商学部 経営学科 3年 竹縄 みずき



企画概要

私たちは、プラスチックによる環境汚染問題を生分解性プラスチックによって解決できるのではないかと考え、牛乳に含まれる乳タンパク質であるカゼインから作られる生分解性プラスチックの、“カゼインプラスチック”に着目しました。カゼイン製品を取り扱っている企業に取材を行い、実際にカゼインプラスチックの制作に取り組む中で、活動メンバーがカゼインについての理解を深め、認知活動を行い、牛乳の大量廃棄問題とプラスチックによる環境汚染問題へのアンチテーゼを提唱します。

活動記録

- 7月2日 Instagram開設
(アカウント名:@mtp_gakuchalle)
- 7月13日 Zoomにて打ち合わせ(今後の活動日程・取材企業の選定について)
- 7月18日 打ち合わせ(紅陵祭の展示について)
- 8月7日 桜沢工芸社 取材訪問
- 8月8日 クロップオザキ アイリス 取材訪問
- 8月17日 カゼインプラスチックの制作①
- 8月18日 カゼインプラスチックの制作②
- 9月4日 zoomにて打ち合わせ
(展示品のデザイン案について)
- 10月7日 カゼインプラスチックの制作③
- 10月12日 アイリス 取材訪問
- 10月21日 パンフレット 完成
- 10月25日 紅陵祭用動画 完成
- 10月27~29日 紅陵祭にて生分解性プラスチック製品の展示・成果確認アンケート実施

活動の目的と目標

1.活動の背景

現在、学校給食の牛乳で余った分は調理室の排水口からグリストラップを通して下水道へ廃棄されています。生分解性プラスチックの一種である、カゼインプラスチックはそのまま土に還することができるため、牛乳の新たな処理方法の提案になるのでは?と考えこの活動を企画しました。

2.活動の目標

私たちの最終的な目標は、消費者が既存のプラスチックよりも生分解性プラスチックを使用し、また企業が生産素材を生分解性プラスチックにシフトチェンジしてさらに多くの消費者が利用するようになるという持続可能な生産・消費構造を構築することです。具体的な数値目標は、紅陵祭でのブース来場者数が200人、Instagramのフォロワー、投稿リーチ数を150人です。

活動実績の報告

1.企業への取材

夏季休暇期間に私たち自身がカゼインプラスチックの理解を深めるため、3社の企業にご協力頂き取材を行いました。

(1)有限会社桜沢工芸社さん

埼玉県草加市にあるプラスチック樹脂加工会社です。アクリルのみならず天然素材であるアセチラクト(カゼイン樹脂)を取り扱っています。

(2)株式会社クロップオザキさん

アパレル副資材卸販売とOEM縫製生産を軸に6つの事業を展開するアパレル副資材商社です。

(3)株式会社アイリスさん

世界トップクラスのシェアを誇るボタン/服飾付属品メーカーです。また、国内で唯一カゼインボタンを製造しています。

(4)取材をとおして意識したこと

私たちが意識したことは消費者にとって普段関わることのないBtoB企業にどれだけ親近感を感じてもらえるかという点です。こちらの3社は基本的に企業間取引、いわゆるBtoBが主軸となっています。そのため、最終消費者である私たちには活動を認知されにくいというのが現状です。そこで私たちが紅陵祭やInstagramをとおして情報を発信することで、企業のホームページやSNSを見るだけでは伝えられない「想い」が届くよう動画制作に取り組み、紅陵祭では来場者一人ひとりに説明するよう意識しました。

2.カゼインプラスチックの制作

私たちは活動期間中、カゼインプラスチックへの理解を深めるために個人、メンバー合わせでおよそ6回の試作を行いました。制作当初は型にカゼインを詰めても空洞が多くボロボロのものが多くありました。しかし、回数を重ねていくうちに、形成前に良くこねることでカゼインがまとまり、型に詰めても空洞ができにくくなるようになりました。制作中に最も難しいと感じたのは乾燥過程です。日本では湿度が高い日が多いためカゼインにカビが発生しやすく、特に梅雨の時期と10月ごろに制作したものは、そのほかの期間に制作したものと同じ場所で乾燥させてもカビが発生してしまいました。乾燥材なども使い、屋根のある所で雨の日は室内で乾燥させるなど天候と湿度に気を遣っていくべきだと思いました。

3.紅陵祭での活動

(1)販売から展示へ

当初、紅陵祭では制作したカゼインプラスチックをアクセサリやキーホルダーにして販売する予定でしたが、廃棄牛乳の確保が難しい点、前述したとおり質の高いカゼインプラスチックを制作することが困難な点から販売を中止し、展示に重点を置くことにしました。

(2)展示物について

今回、私たちが用意したものは主に3つです。1つ目はカゼインボタンの展示です。夏に取材させていただいたアイリスさんにご協力頂き様々な種類のカゼインボタンと同じ型のポリエステル製のボタンを用意しました。ポリエステル製のボタンと比較することでカゼインボタンの良さを明確にすることができました。また、カゼインボタンができるまでの流れがわかるパネルも拝借し、理解が深まるよう工夫しました。

2つ目は動画制作です。生分解性プラスチックについて知ってもらうために7分程度の動画を制作しました。内容は生分解性プラスチック(カゼインプラスチック)とは何なのか、なぜカゼインプラスチックが必要なのか、取材した企業の紹介、課題、私たちにできること、といった構成です。制作にあたってはどれだけ見やすくできるかに重きを置きました。内容を多く入れれば入れるほど文章量も動画の時間も長くなるため、長く見ても疲れなような動画内の音楽の心地よさやテロップの表示時間、テロップ中のキーワードと動画の映像をリンクさせるよう工夫しました。

3つ目はパンフレットの制作です。展示教室に訪れなくても読めば生分解性プラスチックについてわかっていたらよい、文章構成や挿図も限られた誌面のなかでわかりやすいものを選びました。

活動成果

1.目標の達成度と反省

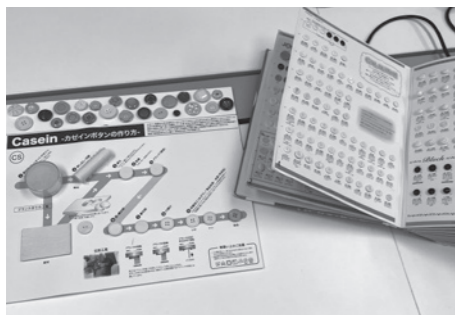
企画書で掲げた数値目標に対し、SNS運用がうまくいかず現時点での達成度は20%ですが、11月前期にYouTubeにカゼインプラスチック制作過程の動画をアップロードしました。一方で、活動にご協力いただいた企業のSNSアカウントや、ホームページに記事を掲載していただいたので、潜在的な認知数も含めると目標は達成されていると考えます。紅陵祭における来場者数の達成度は、約93%と教室の立地が悪いながらも目標と定めていた値に近づけたのではないかと満足しています。2団体合同で展示を行ったことが展示エリアを充実させ、見ごたえのあるブースになったのではないかと考察します。また、紅陵祭用に準備したパンフレットも大半は配り終えることができました。パンフレットに添付したアンケートの結果は、生分解性プラスチックについて知らなかったと回答した方が8割、従来のプラスチック製品の代替品として、生分解性プラスチック製品を利用したいと回答した方が8割いました。さらに「カゼインプラスチックを知ってもらう場を増やしてほしい」という意見もありました。実際、義務教育

2.活動を実施して何に貢献できたか

私たちは「カゼイン」に拘って活動してきました。主な理由として、コロナ禍での学校給食の減少や、ロシア・ウクライナ戦争による物流コスト高、円安による餌代の高騰によって生乳の供給が需要を大きく上回っている現状でありながら、国は国際関係を重視し、輸入量は減らさず国内乳牛の淘汰(食肉処理)を推奨している背景があったからです。現代の大量生産・消費主義社会では、コストパフォーマンスの基準で価値判断されがちですが、活動をとおして多くの人に「カゼイン」(牛乳)の有効性を提示できたことは、このような物質主義社会に警鐘を鳴らし、エコロジーへの配慮を推進できた点で社会貢献していると考えます。



取材の様子(桜沢工芸社)



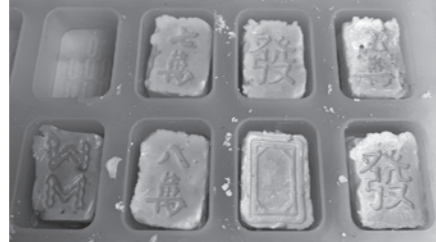
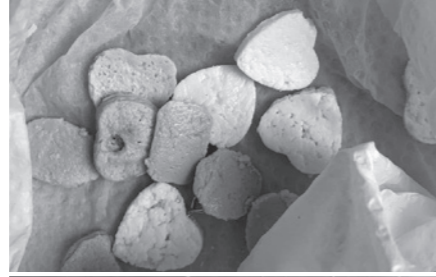
取材の様子



取材の様子(クロップオザキ・アイリス)



配布したパンフレット



自作したカゼインプラスチック



紅陵祭での活動の様子



紅陵祭での活動の様子

会計報告

活動資金(支給額)	38,000円	活動経費(支出額)	34,262円
		残金	3,738円
内 訳			
	項目		小 計
	消耗品費(展示品制作の材料費・展示用掲示物など)		3,970円
	旅費交通費		14,480円
	印刷製本費(パンフレット)		4,492円
	賃借料(レンタルキッチン)		9,470円
	送料(展示品)		1,850円
	合計		34,262円

▶ ホームページ掲載

- 実施企画書 <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/2023/saitaku1.html>
- 学チャレレポート <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/2023/repo2.html>



農と学のマルシェ ～北海道と東京をつなぐ～

【団体名】 北の恵みプロジェクトチーム

【代表者】 商学部 国際ビジネス学科 4年 脇 優翔



企画概要

拓殖大学北海道短期大学(以下:北短)と商学部が協力し合い、ワンチームで紅陵祭と有明にて拓殖大学の魅力を発信するイベントを開催します。農業に関するクイズラリーや野菜の販売、米俵の展示、北短の紹介動画をとおりSDGs目標15の「陸の豊かさを守る」ことの重要性について小さな子どもから大人まで幅広い人々に理解を深めてもらい、考える機会を提供します。

活動記録

- 4月19日 北短・JAFとのZoomの会議初開催(毎週水曜日Zoomにて定期会議実施・隔週で学生のための会議も実施)
- 5月17日 4つの係にチーム分け(広報・装飾・経理・企画)、北短と遠隔の課題であるコミュニケーション問題を解決するためにそれぞれのメンバーをリーダー・副リーダーにすることで、気軽に話せる環境の構築を行う。
- 7月26日 Toyota Mobility Tokyo 有明店(TMT)初訪問(挨拶・店舗見学)・JAFの会議室で対面と遠隔のハイブリッドのZoom会議を実施。
- 8月9日 北短の紹介動画の制作に取り掛かる・TMT有明店の店長からアドバイスをいただく。
- 8月23日 イベントの開催日を本決定・予約制イベントの内容を話し合う。
- 8月30日 紅陵祭における教室展示の内容が決定。米俵体験学習は断念。
- 9月6日 予約制イベントのやさいクイズスタンプラリーの内容を話し合う。
- 9月13日 米俵の展示学習が本決定。白米は売らず、黒米とレトルトカレーを売ることに決定。
- 10月28日 紅陵祭1日目
- 10月29日 紅陵祭2日目
- 11月10日 イベント前日準備
- 11月11日 イベント当日
- 毎週水曜日 Zoomにて定期会議の実施

活動の目的と目標

1.背景

拓殖大学は八王子と文京にキャンパスがあり、八王子国際キャンパスと北短は大学のプログラムで交流する機会がありますが、文京キャンパスと北短は交流する機会が少ないです。そのため、北短から文京キャンパスに編入を考えている学生は文京キャンパスの雰囲気や授業内容、どんなゼミナールがあるかなど、わからないまま編入しなければなりません。そこでひとつの目的を持ち、交流することでお互いを知るきっかけ作りをしたいと考えました。

2.目的

交流する上で本企画の大きな目的は、「北短の学生が作った農作物をできるだけ多くの人に手にとりやすい価格で食べてもらい、SDGs目標15の『陸の豊かさを守る』を考える機会にする」ことです。さらに、長尾教授より紹介いただいたJAFさんやTMT有明店さんといった外部の企業とも連携することで目的の達成に向けて活動をしました。

3.目標

イベントでの目標を来場者数300人(150世帯)、販売数50世帯とする。これはイベントを行うTMT有明店の店長からお話を伺い、普段の来場者数より設定。また、学生が密にコミュニケーションをとることで遠隔でもチームとしての働きを意識する。

活動実績の報告

1.イベントに向けての準備期間

(1)Zoomによる定期会議(毎週水曜日・隔週で学生のみとJAFさん参加の会議を実施)

北短と文京キャンパスの学生が離れた地に住んでいるため、Zoomを用いて毎週水曜日に1時間程の会議を実施しました。コミュニケーションを円滑に進めるために北短と文京の学生をそれぞれ広報・装飾・経理・企画の4つに分担しました。

(a)4つの係の活動内容

広報は、イベントに向けた情報発信を目的とし、Instagramの運用を行いました。また、イベントの1週間前には会場近くの有明駅などでチラシ配布を行いました。当日はJAFの方と協力しながら、会場の周辺での呼び込みやチラシ配布を行い、集客に大きく貢献しました。紅陵祭とイベント会場で流した北短の紹介動画も制作しました。

装飾は、紅陵祭とイベントに向けた模造紙・POPの制作を行いました。そしてイベントに際しPOPを現地で制作し、売りに大きく貢献しました。

経理は、販売する農作物の値段を決めるにあたり、会場周辺のスーパーマーケットや商業施設に実際に足を運び、市場調査を行いました。また、本企画の予算の管理も行いました。

企画は、予約制イベントを0から立ち上げ、スタンプラリーの配置をチームで話し合い決めました。4つの係は密なコミュニケーションを取り、イベントに向け協力して活動をしました。

(2)前日準備(11月10日)

イベントの前日には大学で野菜の袋詰めやスープカレーセットの装飾、POP制作などの準備を行いました。また、袋詰めした野菜や掲示する模造紙を車で運ぶ搬入作業を行いました。

2.紅陵祭(10月28,29日)

紅陵祭では2日間で65人の方にご来場いただくことができました。教室展示では、動画とミニ米俵を用いて北短の紹介を行うほか、本企画や有明のイベントの告知を模造紙9枚にまとめ、展示しまし

た。「北短のことを初めて知った」、「学生が作った野菜が気になる」など多くの感想をいただくことができました。

3.有明店のイベント(11月11日)に関して

イベントでは農作物の販売と野菜クイズスタンプラリーを実施しました。農作物の販売では、東京の暑さで人参の状態が悪くなり、売り物にできないことから販売をやめ無料配布に切り替えました。また、北短の玉ねぎが暖冬の影響で出荷できないという問題に対しては北短の卒業生で玉ねぎ農家を営んでいる朝山農園さんを北短の田中学長から紹介してもらい、玉ねぎを提供していただきました。主に販売した農作物は、人参30kg(無料配布)・じゃがいも50kg・玉ねぎ50kg・スープカレーセット60セット・レトルトカレー50個・黒米50パック・かぼちゃ20kgを店舗の室内外で販売しました。さらには、スタンプラリーも室内外で実施しました。

4.企業との繋がり

JAFさんからは、イベントの企画段階から会議においてアドバイスをいただくなど、社会人の視点からご支援がありました。当日も、集客にご協力いただき、イベントを盛り上げていただきました。TMT有明店は店長を始め、多くの従業員の皆様が要望に対して広く温かい心で対応いただき、当日参加した学生全員がイベントを楽しめることができました。また、JAF・TMT有明店のどちらも集客のためのイベントを実施して下さったことで歩く人の目に留まり、来場に大きくつながったと考えます。この多大なるサポートなしではイベントを成功させることはできなかったため、心より感謝を申し上げます。

活動成果

1.目標数値の達成度

TMT有明店でのイベントで販売数75世帯を突破し、目標である50世帯を超えることができ、イベントで出品した野菜は全て完売することができました。予約イベントのクイズラリーでは10組に参加していただき、「楽しかった」「知らないことを知れた」と親子から感想をいただくことができました。野菜販売とクイズラリーをとおり野菜の知識、魅力を学んでもらうと同時に拓殖大学の宣伝もすることができたと思います。文京キャンパスと北短との交流ではZoom会議の終了後に残っている人で雑談をしながら、ゼミナールの話や授業の話をすることができました。文京キャンパスの学生も北短について知ることができ、北短の学生も編入後のイメージがしやすくなったと感想がありました。イベント当日には、3人の北短の

学生も参加し、俵の説明やクイズラリー中心に文京キャンパスの学生と一緒にすることで今後の交流の大きな一歩となったと思います。

2.身についた力

1番身についた力は対応力だと思います。北短の学生とは簡単に会うことや連絡をとることも難しい中で、できることを各自で探して行動に移せていたと思います。販売予定の人参が売れなくなったり、玉ねぎが入荷できなくなったりとイベントに直接関わる大きな問題が発生した際にも、文京キャンパスの学生と北短の学生と一緒に考え、人参の状態を説明しながら無料で配り、玉ねぎは北短の卒業生の農家の方から購入するなど多くの問題に対応し、社会でも活用できるような対応力を身につけることができたと思います。

3.反省点

企業の協力があり成功しましたが、目標の来場者数の設定と予約イベントの人数設定をもう少し考えるべきでした。イベントまでのリサーチが足りず、チラシ配りも日数を増やせばよかったと考えています。北短との交流では基本的にZoomでしか行わなかったため、夏休みなどに予定を立てて、学生同士で対面で会うことをすればよりスムーズに話し合うこともできより良い交流になったと思います。



集合写真

会計報告

活動資金(支給額)	220,000円	活動経費(支出額)	230,985円
		残金	△10,985円

内訳

項目	小計
消耗品費(文房具代・スープカレーの素・袋・野菜・スタンプラリー用品代など)	90,890円
旅費交通費(羽田空港一旭川空港(往復分))	101,540円
印刷製本費(チラシ・活動資料)	22,935円
各種送料・手数料	15,620円
合計	230,985円

イベントに係る収入

農作物販売・イベントなど	88,700円
合計	88,700円

▶ ホームページ掲載

- 実施企画書 <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/2023/saitaku4.html>
- 学チャレレポート <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/2023/repo5.html>



呼び込みの様子



接客の様子



作物販売の様子



クイズスタンプラリー



屋外販売



JAFの車輛